

「明美ちゃん基金」の適用を受けて完成したミャンマー子ども病院。記念式典には地元から2000人が参加した＝13日、ミャンマー中部メッティラ（三笠博志撮影）



紙提唱 明美ちゃん基金適用

日本風の屋根かわらぐふ
 かれた真っ白な新病院前の
 広場で開催された式典に
 は、ミャンマー政府の要人
 や朝海和夫・日本大使、A
 MDA関係者らが出席。地
 元の人たち約二千人が小旗
 を振って完成を祝った。
 ケッセイン保健省大臣は
 「日本に感謝しています。
 医療の水準を上げるため、
 ミャンマーも頑張りたい」

とあいさつ。AMDAの管
 波茂代表は「子供は家族を
 して国の宝。この病院が両
 国民の友情のシンボルにな
 るはず」とこたえた。
 また「明美ちゃん基金」
 事務局の阿部雅美・産経新
 聞大阪本社社会部長が、読
 者から寄せられた善意が建
 設に役立てられたことを説
 明した。
 子ども病院は昨年十一

ミャンマー子ども病院完成

AMDA「自立医療」確立を支援

【メッティラ（ミャンマー中部）13日＝三笠博志】産経新聞社提唱の「明美ちゃん基金」の適用を受け、国連NGOの「AMDA」（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市）がミャンマー中部のメッティラ地区に建設していた同地区で初めての小児専門病院「ミャンマー子ども病院」が完成、十三日に記念式典が開かれた。AMDAは、ここを拠点に現地医師や看護婦の育成も計画。十四日に医療業務を開始する。

月、保健省所管の一般病院「メッティラ病院」に併設して着工。鉄筋平屋建て約九百八十平方メートルの細長い建物で、一般病室のほか、ミャンマーでは珍しい集中治療室や新生児室など約二十室を設けた。入院ベッド

約五十床。建設費は約千二百万円。機械購入費や運営費を含めた全体費用は約五千万円。十四日からは、隣のメッティラ病院で治療を受けていた子どもたちが転院。AMDA登録の日本の小児

科医と看護婦を派遣。その後五年間かけて相互交流を続け、自立的な医療活動の確立を支援する。「明美ちゃん基金」では、今回のプロジェクトに対し、海外の医療活動に適用を拡大した第一号として一千万円を拠出している。メッティラ地区は、首都ヤンゴンの北約五百八十キロで、人口約二十八万二千人で、うち約三分の一が十五歳以下の子どもたち。治療の遅れから幼い命を失うケースが少なくなかった。

シーさん（四三）と看護婦三人で治療にあたる。キンタンシーさんは「貧しくて助けられなかった子供を一人でも多く、救いたい」と話している。

AMDAは来年一月から三カ月間、キンタンシーさんを日本の病院に受け入れて研修を実施し、代わりにAMDA登録の日本の小児